

市況月報

肉畜及び食卵食鳥(10月)

(大阪市食肉卸売市場)

牛肉 前月に較べて700頭(約1割)の入荷増と本格的需要期には尚早のため、相場は10円方下げた。下旬になり気温の低下から、幾分持ち直した。

11月も期待薄であり、12月にならぬと消費も伸びない模様である。

豚肉 入荷は前月より約8%増であり、消費も変らなかったことから横バイを続けた。

11月以降も変わらずであろう。

(大阪中央卸売市場)

鶏卵 10月は9月から続いた高卵価も、漸次下降線を辿り、一級品198円まで下げて終った。上旬はリクリエーション用の消費があり、もちこたえたが、以後は4月ビナの本格的産卵による入荷増など条件がよくなかった。11月以降も横バイか。

食鶏 今月は広範囲に亘る若鶏の病気で品がやや不良であった。

中物平均価格 (kg当り) ト 殺 頭 数 (大阪市場)

畜別	平均価格 (円)		畜種	総頭数	ト 殺 頭 数		
	38.10	37.10			メス	メスキ	オス
牛	391	406	牛	7,725	3,564	2,382	1,371
メスキ	367	391	子牛	585	139	—	446
オス	352	377	馬	—	—	—	—
豚	412	289	豚	13,743	5,775	7,888	80

共同出荷実績 (枝肉出荷量)

畜種	頭数(ト)	平均価格(円)	枝肉量(Kg)	売上金額(円)		
				枝肉	原皮	内臓
牛	27	365	5,125.3	1,829,450	19,410	20,800
豚	679	332	46,222.6	15,206,690	6,790,131	466,153,449

平均価格 (kg当り)

区分	38.10	37.10
卵	211	204
ブロイラー	235	141
親鶏	147	214

共同出荷実績

区分	卵	ブロイラー	親鶏
経済連	674,969	—	—
西大寺	28,618	—	—
美作	82,112	—	—
養鶏加工連	—	11,800	—
計	785,699	11,800	—

阪神地区入荷推定数量

区分	卵	ブロイラー	親鶏
岡山	1,125,000	38,000	25,000
香川	895,000	41,000	34,000
大阪	1,595,000	70,000	70,000
その他	3,100,000	180,000	110,000
計	6,695,000	329,000	239,000

子牛子豚市況(11月)

子牛 11月は一番盛況を示す月であるが、今年も活発であった。全般を通じて、肉用牛としての利用目的にかなった牛、いわゆる出荷規格のよい牛は割高であった。そこでいま一步、肉用牛としての改善に務めるべきでしょう。それにあわせて規格の小さいもの、不揃いなものがありますから注意して下さい。

子豚 豚枝肉高から需要は旺盛で、相場は依然強保合いである。市場でみられることは、雑種が少なくなり、品種が統一されて来ているがまだ規模の小さいものがある。20kg以上にして出荷されたい。

相場は今後当分のあいだは、横バイが続く見通しです。

子牛市況

市場名	開設月日	入場頭数	売買数	売買率	1頭当りの価格			県外移出頭数
					最高	最低	平均	
長田	11/2	121	103	85	48,100	10,000	25,200	66
矢掛	11/4	74	57	77	37,000	3,500	18,720	22
真庭	11/3~12	2,277	1,977	87	160,100	3,000	31,307	1,074
井原	11/14	96	52	54	32,000	5,400	15,282	24
津山	11/13~17	1,329	1,211	91	100,000	3,200	31,500	936
高梁	11/18~21	634	551	87	60,800	4,200	28,800	471

子豚市況

市場名	開設月日	入場頭数	売買数	売買率	1頭当りの価格			県外移出頭数
					最高	最低	平均	
久世	11/18	320	320	100	10,500	3,000	7,689	—

値上り止むを得ず

このところの飼料価格は、10月以降飼料の需要期に入ったため、単味飼料も配合飼料の値上りとともにかなり上向いている。

配合飼料はこの春以来、原料大豆粕、魚粉、トウモロコシの海外市況値上り、さらにソ連の小麦の大量買付けによる小麦価格の急騰などで、9月以降多くのメーカーで値上げを余儀なくされたが、来年春にかけてさらに値上げが予想されている。配合飼料で一番消費のウエートの高い県経済連扱いの「くみあい飼料」価格は、8～9月の一般メーカーの値上

げに際しても据置いていたが、ついに11月には20kg紙袋、1袋あて16年方値上げを行なった。現在さらに12月から1kgあたり1円、明年1月にも1円50銭程度の値上げが予定され、これを合わせるとkg当たり3円50銭（1割以上）の値上りとなるわけで、今後原料高も緩和しようが配合飼料依存度の高い養鶏、養豚、酪農に影響を与えることが心配される。

久しく横バイを続けていた配合飼料の農村価格（農家購入）も、11月の農村物価賃金調査（農林省一岡山）によればかなりの値上り傾向をみせている。

飼料価格（11月）一岡山県平均一

農村飼料価格【農村物価賃金調査】

品目	価格	前月比較	前同月比	年%
(単味)				
魚かす(90kgコモいわし)	4,200	横バイ		105
大豆粕(37.5kg)	1,870	44円高		111
ふすま(30kg俵)	843	84円高		102
米ぬか()	699	24円高		103
麦ぬか混合()	744	10円高		103
(配合)				
育雛用(20kg紙袋粗蛋白16.5%以上)	788	3円安		99
若どり用(20kg紙袋"17%)	718	5円高		97
成鶏用(20kg紙袋"15%)	705	10円高		101
乳牛用(30kg紙袋"13%)	930	9円高		101
養豚用(30kg紙袋"12.5%)	958	12円高		102

資料：農林省岡山統計調査事務所

岡山県統済連飼料卸価格

種類	規格	価格	前月比較
(単味)			
大豆粕	3.75kgカマス	1,825	35円高
ふすま	30kgスフ袋	747	2円高
米ぬか	30kg俵	710	30円高
麦ぬか	15kg紙袋	358	横バイ
(配合)			
中すう用	20kg紙袋CP17%以上	700	横バイ
成鶏用マツシュ	"CP18%以上	671	16円高
"	"16%	604	25円高
"粒粉混合	"16%	631	16円高
乳牛用	"CP15%以上	601	16円高
豚用	"CP17%以上	630	16円高
ブロイラー用	"CP17%以上	681	16円高

(注) 標準最寄り駅渡し価格

みとおし 畜産物市況

(鶏卵、牛枝肉、豚枝肉)

鶏卵＝相場はこのところ入荷が思ったより伸びず、年末需要もほぼ順調で、12月中旬現在さらに強気を続けている。しかし今年の2倍近い冷蔵卵の放出も考えられ、高値も大阪市場業者仕入値230円止まりで、昨年ほどの高値は出ない模様である。1月に入

れば例年需要の減退から、12月相場より30～40円方は低い水準となるが、成鶏羽数も昨年を上廻り、供給は増加が見込まれるが、豚肉高消費は引続き順調とみられるので中旬には190円（基準同前）前後の下げに停るのではないかと。1月下旬から2月にかけて

岡山畜産便り 1963.12

ては寒さに向い一時的には上向き、200 円を多少上廻る相場も出るであろう。

牛枝肉=12 月には各地で枝肉共進会が開かれ、上物の市場への入荷が多いため、大阪、岡山など各地の食肉市場から小売店に至るまで在庫が多く、12 月上旬、上物がやや値下りをみた。しかし豚肉高とともに中旬以後消費も次第に伸び、価格も 5~6 円方上げたが、引続いて入荷の多い見込みから、年内は大阪食肉市場でぬき中値 (kg 当り) 370~380 円程度の横バイで終るのではないか。

1 月はかなりの冷蔵在庫が年を越すものと考えられるが、入荷もかなり減るとみられるので、寒さが加わるのとともに、メス、ヌキともに上物は強保合

い、ヌキ中値平均 (同前) 380 円台が見込まれる。

豚枝肉=12 月の相場は 11 月の一時的な高値のあと、輸入肉の放出や加工手当の中だるみ等でやや弛んだが、入荷量が昨年同期に比べ 30%以上も少ないので、12 月中旬現在強保合いを続けている。これは最近地方消費が増えたのと、12 月から明年 2 月頃まで出荷されるとみられる全国の 5~7 月の子豚生産が、なお前年同期に比べ 9%減であったことなどによるものとみられる。したがって 1 月の豚枝肉相場は輸入肉の放出があっても品不足は当分続きそうで、岡山食肉市場規格物 (卸) 中値平均では 420 円をかなり上廻る相場が見込まれる。

家畜共済に加入しよう

可畜共済の掛金が高すぎるということをよく聞きますが、どうしたら掛金を安くすることができるか、二つの方法について、考えてみましょう。

その一つは、家畜の飼い方に気をつけて、病気をなくすることです。

岡山県の乳牛が他県にくらべて、非常に病気の多いことが掛金を高くしている原因となっています。

飼い方や、乳の搾りに十分注意し、病気にかからぬよういたしましょう。

もう一つの方法は、できるだけ多くの家畜が加入して、引き受けを拡大することです。

保険というものは、対象が多いほど安全性が高くなり、掛金も安くてすむものです。

逆に弱い牛だけ加入させたり、全額加入をせずに、共済を悪用するような方があると、それだけ掛金は高くなって、多くの人に迷惑がかかります。

家畜共済は農家のみなさん方の制度であり組織ですから、みんなで力を結集して、もっとも安い掛金で、最高の保証が得られるようにしなければなりません。

そのためには、1 頭のこらず家畜共済に加入しましょう。

まら、ことしは一定の加入率に達した地域には、加入奨励金が国から交付されますから、共済組合や、市町村がいま実施している加入推進運動にすすんで協力してください。